

活動報告（平成 16 年）

1 戦史関連研究会

◇戦争史研究国際フォーラム◇

「日露戦争と世界—100 年後の視点から—」

9 月 29・30 日（グラントヒル市ヶ谷）

特別講演

「ロシアにおける日露戦争研究について」

モスクワ工科大学歴史・政治学部教授 ドミトリー・パブロフ

研究発表

「日露戦争と国際関係」

カナダ王立国防大学歴史学部教授 キース・ニールソン

「日露戦争と日本外交」

京都大学法学部教授 伊藤之雄

「日露戦争とドイツ帝国海軍」

ドイツ軍事史研究所主任研究官 ベルトホルド・ザンダー＝ナガシマ

「日露の海戦がアメリカ海軍に及ぼした影響」

航空自衛隊幹部学校教官 高橋文雄

「技術戦としての日露戦争—日本陸軍の技術革新への対応と火砲—」

防衛大学校助教授 横山久幸

「フランスから見た日露戦争」

防衛研究所戦史部主任研究官 立川京一

「日露戦争が 20 世紀前半の日波関係に与えたインパクトについて」

ワルシャワ大学日本・韓国研究学部教授 エヴァ・ルトコフスカ

「日露戦争と日土関係」

ボスポラス大学歴史学部教授 サルジユク・エセンベル

「日露戦争と朝鮮」

啓明大学校日本学科教授 李盛煥

議長

防衛研究所戦史部長 林吉永

コメント

玉川大学経営学部助教授 等松春夫

防衛研究所戦史部主任研究官 相澤淳

東京女子大学現代文化学部教授 黒 沢 文 貴
名城大学都市情報学部教授 稲 葉 千 晴

◇ 戦争・戦略研究ミニシンポ「地政学」◇

3月1～4日（防衛研究所）

研究発表

「地政学概論－方法論を中心に－」

「地政学の主要な学派」

『『東方問題』の地政学」

「新しい世界秩序－将来および地政学－」

ギリシャ海軍大学教授 イオアニス・ルーカス

「戦後日本における地政学研究の動向」

防衛研究所戦史部第1戦史研究室長 庄 司 潤一郎

「ハウスホーファーの外交政策理論における日本」

ICU アジア文化研究所準研究員 クリスティアン・シュパング

「近代日本における地政学的思考」

上智大学名誉教授 三 輪 公 忠

「21世紀日本の地政学的課題」

防衛研究所所長 柳 澤 協 二

司 会

防衛研究所戦史部長 林 吉 永

コメント

比較戦略研究所研究員 ディミトリオス・メキシス

防衛研究所戦史部主任研究官 立 川 京 一

◇各種研究会◇

1月14～16日

「戦争を正確に理解することの困難さ－教訓は学べるか－」

「ルイ14世の戦争－絶対防御という矛盾－」

「正統な戦争とテロリズム－現代戦争の新クラウゼヴィッツ的解釈1945～
2000年－」

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校歴史学部教授、米国国際軍事史学会会長
ジョン・リン

2月24日、4月21日、5月21日

「戦後日本外交の軌跡Ⅰ」

「戦後日本外交の展開Ⅱ」

「戦後日本外交の展開Ⅲ」

慶應義塾大学名誉教授 池 井 優

2月27日

「欧米における日露戦争研究動向」

慶應義塾大学教授 横 手 慎 二

3月26日

「豪州における日本軍捕虜－カウラ脱走事件（昭和19年8月）－」

豪州戦争記念館豪日研究プロジェクト上級調査員 田 村 恵 子

4月27日

「イラク戦争に対する英国の貢献」

駐日英国大使館付武官海軍大佐 サイモン・チェルトン

5月11日、5月18日、5月26日、5月31日、6月8日、6月15日、

6月22日、6月29日

「日露戦争に見る日米関係」

上智大学名誉教授 三 輪 公 忠

7月16日

「EBO」

オハイオ州立大学名誉教授 ウィリアムソン・マーレー

9月3日、10月8日、10月29日

「戦後日本政治史（Ⅰ）」

「戦後日本政治史（Ⅱ）」

「戦後日本政治史（Ⅲ）」

東洋英和女学院大学教授 楠 精一郎

10月19日

「旧日本軍の人事評価制度」

元防衛研究所戦史部所員 熊 谷 光 久